

報 告

2018–2020 年に見出した神奈川県地域植物相の 重要な記録となる標本

田中徳久

Norihisa Tanaka: Herbarium specimens discovered during the period from 2018 to 2020 for important records of the regional flora of Kanagawa Prefecture, Japan

Abstract. Although the regional flora of Kanagawa Prefecture is one of the most thoroughly surveyed in Japan (e.g., Tanaka, 2002), the records of certain taxa can be found only in the literature, and there are no known specimens. Accordingly, with the aim of establishing the existence of specimens of these taxa, I examined a range of herbarium specimens. In this report, I describe how specimens of the following six taxa were discovered during the period from 2018 to 2020: *Clintonia udensis* Trautv. & Mey, *Carex aequalta* Kük., *Ranunculus chinensis* Bunge, *Ludwigia ovalis* Miq., *Lysimachia leucantha* Miq., and *Rhododendron transiens* Nakai. Among these taxa, only literature records could be found for *Cl. udensis*, *Ca. aequalta*, and *Ly. leucantha*, whereas specimens of *Ra. chinensis*, *Lu. ovalis*, and *Rh. transiens* were collected in areas from which they were previously unknown.

緒 言

神奈川県は、もっともよく植物相が把握されている都道府県の一つと言われ、これまで6編の県単位の植物目録・植物誌が刊行されている(田中, 2002 ほか)。このうち、神奈川県植物誌調査会による、実際に野外で採集された植物の証拠標本に基づく分布記録と、過去に採集され、標本庫に集積されている標本の分布記録に基づいた植物相調査の成果である神奈川県県単位の植物誌は、『神奈川県植物誌 1988』(神奈川県植物誌調査会編, 1988)に始まり、『神奈川県植物誌 2001』(神奈川県植物誌調査会編, 2001)を経て、『神奈川県植物誌 2018』(神奈川県植物誌調査会編, 2018)で3編目となる。その調査は、1979年に始まった神奈川県植物誌調査会編(1988)のための調査開始以来、2020年で丁度40年となる。その間、刊行された植物誌やそのために収集された標本情報は、『神奈川県レッドデータ生物調査報告書』(神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995), 『神奈川県レッドデータ生物報告書 2006』(高桑ほか編 2006) 所載の「維管束植物」(勝山ほか, 2006), 『神奈川県レッドリスト〈植物編〉2020.』(神奈川県, 2020)などのレッドデータ植物の選定などに活用されている。しかし、これらの過程においても、既報に記録があるが採集された標本が確認できずに、神奈川県植物誌調査会編(1988), 神奈川県植物誌調査会編(2001), 神奈川県植物誌調査会編(2018)で参考種として掲載されるに留まらざるを得なかったも

のや、神奈川県レッドデータ生物調査団編(1995), 勝山ほか(2006)や神奈川県(2020)の選定過程で消息不明種とされたものも多い。

ここでは、2018–2020年に見出された、神奈川県植物誌調査会編(2018)の調査や神奈川県(2020)の選定過程で参考種あるいは消息不明種とされた植物の標本を、神奈川県地域植物相の重要な記録となる標本として報告する。同様の報告は、あるコレクションを対象とした報告(田中・高橋, 2007)や各地の標本庫調査を行った際の報告(田中・大西・勝山, 2015, 田中, 2016)などがある。

材料と方法

標本調査と画像の収集

標本調査は、これまで神奈川県内で採集された標本が知られていなかった種の標本やこれまで標本記録がなかった産地で採集された標本など、神奈川県地域植物相の記録上、重要だと考えられる標本を各地の標本庫で探索した(下記の標本庫は本報で報告した標本の収蔵館のみで、実際には他の標本庫でも探索している)。具体的には、神奈川県植物誌調査会編(2001)や勝山ほか(2006), 神奈川県植物誌調査会編(2018)で参考種あるいは消息不明種とされた種や絶滅種の標本を中心に実施した。

確認された植物標本は、デジタル一眼レフカメラによ

り標本画像を収集し、得られた標本画像から、ラベルに記されている標本の属性（植物の和名、学名、採集地、採集年月日、採集者、採集者の標本番号、標本庫の標本番号など）をデジタルデータ化した。この標本の属性は、標本画像とともに、神奈川県立生命の星・地球博物館の収蔵資料管理システムの維管束植物画像（KPM-NX）に登録した。

なお、標本庫の略号は、Index herbariorum (NYBG, online) に登録されているもので、以下に示した。

KPM: 神奈川県立生命の星・地球博物館, KYO: 京都大学植物標本庫 (京都大学総合博物館), LE: コマロフ植物研究所 V. L. Komarov Botanical Institute (ロシア: サンクト・ペテルブルク), MAK: 東京都立大学牧野標本館, MBK: 高知県立牧野植物園, TOYA: 富山市科学博物館, TUS: 東北大学大学院理学研究科生物学専攻植物分類学教室植物標本室。

結果と考察

田中 (2016) では、報告する標本を、採集年代別に、(A) 江戸時代 (横浜開港以前), (B) 横浜開港から明治初期, (C) 明治初期から昭和前期に分けて報告したが、ここで報告するのは、(C) およびその後の時期に位置づけられるものである。各植物の記述は、神奈川県植物誌調査会編 (2018) の和名、学名を見出しとしたが、掲載されていないものは、米倉・梶田 (2003-) に拠った。また、報告する種の配列は原則、神奈川県植物誌調査会編 (2018) に従った。記述中の標本の引用ではラベルに記載されている採集地、採集年月日、採集者、採集者の標本番号、標本庫略号、標本番号、本報での図番号を示した。

今回報告する標本はユリ科 Liliaceae のツバメオモト *Clintonia udensis* Trautv. & Mey、カヤツリグサ科 Cyperaceae のトダスゲ *Carex aequalta* Kük.、キンポウゲ科 Ranunculaceae のコキツネノボタン *Ranunculus chinensis* Bunge、アカバナ科 Onagraceae のミズユキノシタ *Ludwigia ovalis* Miq.、サクラソウ科 Primulaceae のサワトラノオ *Lysimachia leucantha* Miq. およびツツジ科 Ericaceae のオオヤマツツジ *Rhododendron transiens* Nakai の計 6 科 6 種である。詳細を以下に記す。

1) ツバメオモト *Clintonia udensis* Trautv. & Mey

箱根で採集された標本 (Hakone, Kanagawa Pref. Aug. 9. 1965 Hiroe, M.-17662 KYO; 図 1) を確認した。奥山 (1948) や神奈川県博物館協会編 (1958) に「丹沢」の記録があるが、本種は本来亜高山帯を分布域とする植物であり、木場・高橋 (2001)、木場 (2018) では、標本が確認されていないことから、疑問視され、参考種とされていた。

なお、ロシアのコマロフ植物研究所に、須川長之助が 1864 年に箱根で採集したとされる標本 (LE01042688)

も残されている。しかし、Takahashi *et al.* (2020) のように、従来、箱根とされて来たミヤマアシボソスゲ *Carex scita* Maxim. のタイプ産地について、現在知られている分布では箱根に産しないこと、原記載の産地の記述が「おそらく箱根の山中」とあやふやであること、知られていたタイプ標本には「Hakone」と記載されていないこと、新たに見出された標本では、「信濃」の上に「箱根」と上書きされていること、などから、「無条件に箱根とすべきでない」としている例もあり、今回、箱根で採集された標本が確認されたが、これまで箱根での文献上の記録がないこともあり、さらに慎重な検討が必要である。

2) トダスゲ *Carex aequalta* Kük.

横須賀市大楠山で採集された標本 (Ohgusu-yama, Kanagawa Pref. May. 5. 1933 Chojii Suzuki TUS169646; 図 2) を見出した。神奈川県博物館協会編 (1958) や宮代 (1958) には「箱根」の記録があるが、これまで標本が確認されておらず、勝山 (2001, 2018) などでは参考種とされていた。今回見出された標本の採集地は大楠山であり、本種の自生する湿生環境が存在していたのかは不明であるが、近隣の葉山町では湿地に生育するミズユキノシタやヒキノカサが採集されており (勝山, 2010; 大西, 2018)、湿生環境が存在した可能性がある。また、採集地の記載に際して、地名の範囲の捉え方に差異がある可能性もある。なお、この標本は、ジュズスゲ *C. ischnostachya* Steud. やゴウソ *C. maximowiczii* Miq. に同定されていたものである。

3) コキツネノボタン *Ranunculus chinensis* Bunge

平塚で採集された標本 (Hiratsuka, Hiratsuka City, Kanagawa Pref. 1928 Tomitaro Makino MBK01500239-MAK204353; 図 3) を見出した。神奈川県博物館協会編 (1958) に「茅ヶ崎」の記録があり、松浦 (1958) にも記録がある。神奈川県植物誌調査会編 (1988) の調査では確認できず、神奈川県レッドデータ生物調査団編 (1995) でも「絶滅」とされた。しかし、その後の調査で箱根での分布が再確認された (勝山, 1996)。また、標本は確認していないが、横浜市瀬谷区瀬谷市民の森の報告がある (奥山, 1989)。

4) ミズユキノシタ *Ludwigia ovalis* Miq.

横浜で採集された標本 (Shirosato-mura, Yokohama City, Kanagawa Pref. July, 5. 1914 Tomitaro Makino MBK0001450-MAK42792; 図 4) を見出した。神奈川県博物館協会編 (1958) には「鎌倉、茅ヶ崎、厚木、平塚」、出口 (1968) には「上白根大池、桐が作大池」の記録があるが、標本は確認されていなかった。ここで報告した標本の採集地である「Shirosato-mura」は橘樹郡にあった村で、現在の横浜市港北区南部、神奈川区北西部に位置する。出口 (1968) の記録とは多少ずれるが、横浜市内に生育していた証拠となる標本だと思われる。なお、神奈川県植

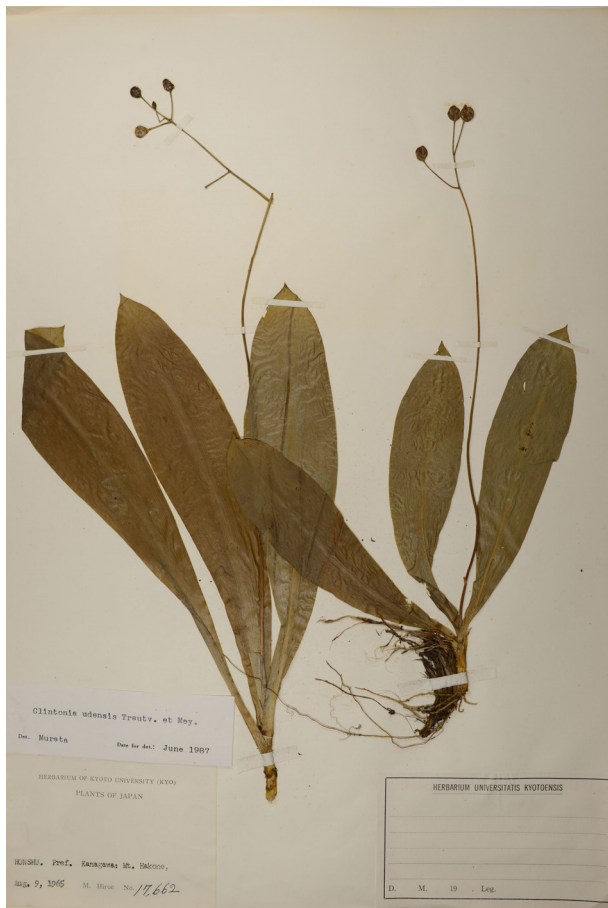


図 1. 箱根採集されたツバメオモト *Clintonia udensis* の標本 (KYO; KPM-NX0001894) .



図 2. 大楠山で採集されたトダスゲ *Carex aequalta* の標本 (TUS169646; KPM-NX0001895) .



図 3. 平塚で採集されたコキツネノボタン *Ranunculus chinensis* の標本 (MBK01500239-MAK204353; KPM-NX0001896) .

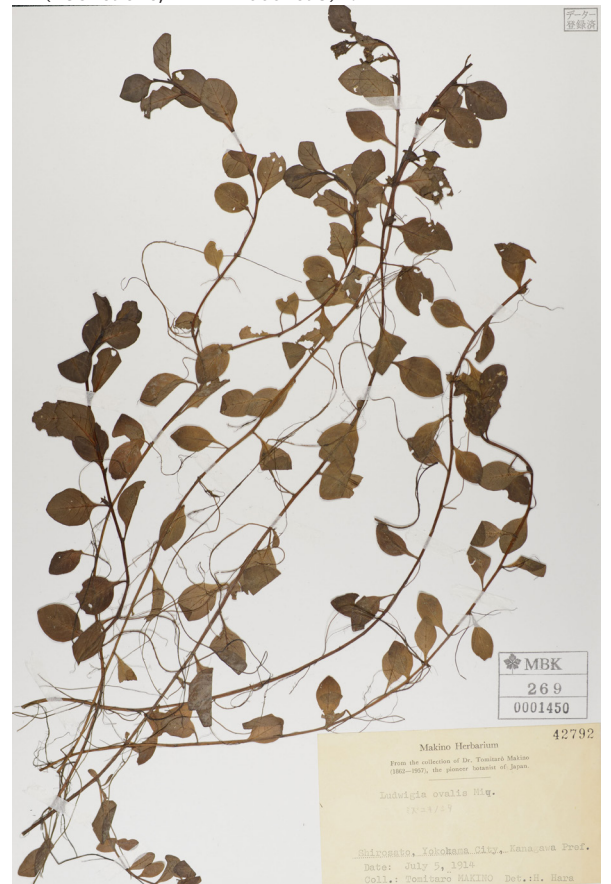


図 4. 横浜で採集されたミズユキノシタ *Ludwigia ovalis* の標本 (MBK0001450-MAK42792; KPM-NX0001898) .

物誌調査会編（2001）の調査においては、横浜市中区で移入と判断されるものが採集された以外は確認できず、勝山ほか（2006）では絶滅と判定されていた。その後、2010年9月に葉山町の谷戸田とその周辺湿地において再発見されている（勝山, 2010）。

5) サワトラノオ *Lysimachia leucantha* Miq.

箱根で採集された標本（箱根 Kazuo Izawa MBK0048213；図5）を見出したが、採集年月日は不明である。松浦（1958）に「双子山, 仙石原」の記録があるが、松野編（1933）や神奈川県博物館協会編（1958）、宮代（1958）にも記録がなく、神奈川県植物誌調査会編（1988）、神奈川県植物誌調査会編（2001）、神奈川県植物誌調査会編（2018）のための調査でも採集されず、参考種としての掲載からも漏れていた。これまで探索してこなかった種でもあり、今後、さらに標本調査を継続することで別の標本が見い出される可能性もある。なお、苞の形と長さ、花冠の大きさから本種と判断したが、少し大きく、トウサワトラノオ *L. candida* Lindl. の可能性もある。

6) オオヤマツツジ *Rhododendron transiens* Nakai

横浜で採集された標本（Shirosato-mura, Yokohama City, Kanagawa Pref. May, 16. 1915 Tomitaro Makino MBK0077836-MAK1007644；図6）を見出した。松野編（1933）では「都筑川和」と「石川」（現横浜市青葉区あ

たり）に記録があるが、これについては出口（1968）は「？」を付している。ここで報告した標本の採集地である「Shirosato-mura」は橘樹郡にあった村で、現在の横浜市港北区南部、神奈川区北西部に位置する。松野編（1933）の記録とは多少ずれるが、横浜市内に生育していた証拠となる標本といえる。

おわりに

田中（2016）が指摘したように、地域植物相の記録上重要な標本は、今後の標本調査の進行に伴い、さらに見出される可能性がある。対象となる標本の点数は膨大であるため、完全な把握が完了するには、各標本庫での関連調査に費やす時間や人的・金銭的資源だけでなく、各標本庫が、閲覧・調査に供せる状態に標本を整理する時間と人的・金銭的資源、さらには収蔵場所の整備も必要である。近年、各地の標本庫では、収蔵標本のデータベース化が採集情報とともに画像情報も含め進行しており、インターネット上で公開されている例も多い。しかし、その全部が、必要な情報を検索できる状態にはないのが現状である。また、本報でのトダスゲの事例や田中（2020）で報告した事例もあるように、収蔵されている標本は、常に同定が変更される可能性がある。そのため、今後も継続的な標本の調査・研究が必要である。



図5. 箱根で採集されたサワトラノオ *Lysimachia leucantha* の標本（MBK0048213; KPM-NX0001899）。



図6. 横浜で採集されたオオヤマツツジ *Rhododendron transiens* の標本（MBK0077836-MAK1007644; KPM-NX0001810）。

謝 辞

本報をまとめるにあたり、京都大学総合博物館の永益英敏教授、高知県立牧野植物園の藤川和美氏と小松 冴氏、東北大学植物園の牧 雅之教授、コマロフ植物研究所の Alisa E. Grabovskaya-Borodina 氏には、標本の閲覧に際し、大変お世話になった。また、神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男元学芸員には、一部、画像による同定にご協力いただいた。併せて感謝の意を表する。なお、標本調査は、神奈川県レッドデータ生物選定に関する生物多様性保全推進費および JSPS 科研費 17K01218 により行われた。

引用文献

- 出口長男, 1968. 横浜植物誌. 6+256 pp., 44 pls. 秀英出版, 横浜.
神奈川県編, 2020. 神奈川県レッドリスト〈植物編〉2020. 55 pp. 神奈川県, 横浜.
神奈川県博物館協会編, 1958. 神奈川県植物誌. 4+257 pp., 8 pls. 神奈川県博物館協会, 横浜.
神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学), (7). 257 pp., 8 pls. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
神奈川県植物誌調査会編, 1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442 pp. 神奈川県立博物館, 横浜.
神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1582 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
神奈川県植物誌調査会編, 2018. 神奈川県植物誌 2018. xviii+1720+128 pp. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
勝山輝男, 1996. コキツネノボタンお玉が池に健在. *Flora Kanagawa*, (43): 470.
勝山輝男, 2001. スゲ属. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2001, pp. 442–483. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
勝山輝男, 2010. ミズユキノシタの再発見. *Flora Kanagawa*, (71): 863–864.
勝山輝男, 2018. スゲ属. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018, pp. 464–509. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006, pp. 37–130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
木場英久, 2018. コリ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018, pp. 294–302. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
木場英久・高橋秀男, 2001. コリ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2001, pp. 191–224. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
松野重太郎 編, 1933. 神奈川県植物目録. 5+111+23 pp., 10 pls. 神奈川県博物調査会, 横浜.
松浦茂寿, 1958. 箱根植物目録. 4+1+2+90+2+25 pp. 箱根博覧会, 箱根.
宮代周輔, 1958. 神奈川植物目録. 4+112+41 pp. 自費出版.
NYBG, online. Index Herbariorum. <http://sweetgum.nybg.org/science/ih/> (accessed on 2020-October-20).
大西 亘, 2018. キンボウゲ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018, pp. 683–711. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
奥山春季, 1948. 植物採集覚書(其五). 植物研究雑誌, **22**: 53–55.
奥山春季, 1989. 横浜市瀬谷区市民の森の植物調査. レポート日本の植物, (38): 185.
Takahashi H., A. Grabovskaya-Borodina & T. Katsuyama, 2020. The type locality of *Carex scita* (Cyperaceae) in Japan. *The Journal of Japanese Botany*, **95**: 95–101.
高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 2006. 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006. 442 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
田中徳久, 2002. 各都道府県別の植物自然史研究の現状, 14. 神奈川県. 植物地理・分類研究, **50**: 177–178.
田中徳久, 2016. 神奈川県の地域植物相の重要な記録となる標本. 神奈川県自然誌資料, (37): 1–10.
田中徳久, 2020. サイエンスミュージアムネットで公開されている神奈川県で採集された標本の同定変更. *Flora Kanagawa*, (89): 1067–1070.
田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015. サヴァチェが採集した植物標本に残る神奈川県の絶滅植物. 神奈川県自然誌資料, (36): 11–20.
田中徳久・高橋秀男, 2007. 「宮代コレクション」の神奈川県レッドデータ植物. 神奈川自然誌資料, (28): 29–38.
米倉浩司・梶田 忠, 2003–. BG Plants 和名-学名インデックス (YList). <http://ylist.info> (accessed on 2020-October-20).
-
- 田中徳久：神奈川県立生命の星・地球博物館
(受領 2020 年 10 月 31 日；受理 2021 年 1 月 21 日)